

令和4年度将来にわたって旅行者を惹きつける
地域・日本の新たなレガシー形成事業
「知多木綿発祥の地・岡田「つむぐ、織姫の
まちづくり構想」形成事業」

事業実施報告書

令和5年3月15日

国土交通省 中部運輸局

目次

1. 調査概要.....	1
(1) 目的.....	1
(2) 作業工程.....	1
(3) 実施スケジュール.....	2
2. 岡田地区及び知多木綿発祥の地に関する調査.....	3
(1) 元女工さん等へのヒアリング.....	3
(2) リレーインタビュー.....	11
(3) 文献調査.....	16
(4) 知多木綿発祥の地・岡田ストーリー.....	21
3. 街並み・建物実態調査.....	23
(1) 空家等の調査.....	23
(2) 空家等の活用に向けた検討を目的としたアドバイザーの招請.....	29
(3) 課題の整理.....	37
4. ターゲット別ニーズ調査.....	38
(1) 来街者調査.....	39
(2) 将来来街者調査.....	42
(3) インバウンド調査.....	46
(4) クリエイター・デザイナー調査.....	47
(5) 事業者調査.....	50
(6) 課題の整理.....	53
5. 検討会及びワークショップの開催.....	54
(1) 実施概要.....	54
(2) 実施記録.....	55
6. 「知多木綿発祥の地・岡田「つむぐ、織姫のまちづくり構想」の立案.....	60
(1) まちづくり構想立案までのフロー.....	60
(2) まちづくり構想.....	61
(3) 今後に向けて.....	67

1. 調査概要

(1)目的

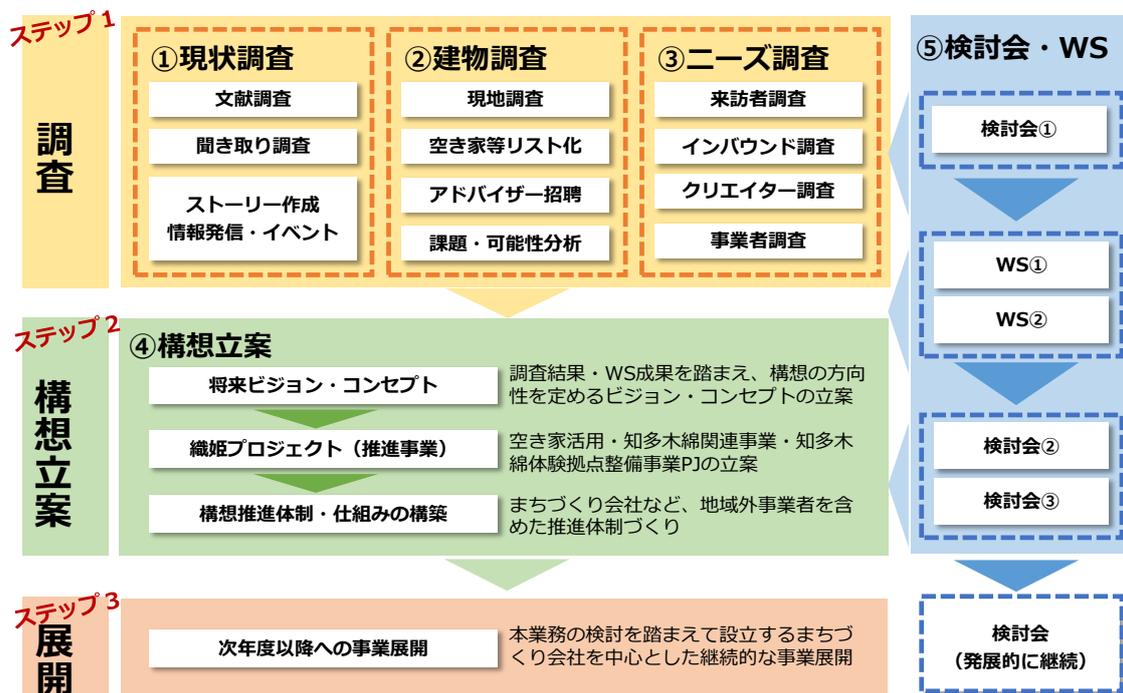
新型コロナウイルス感染症の拡大を機に、人々の行動様式や生活様式、また観光に求めるニーズなどが変化中、地域の持続的な観光地経営の実現を図るためには、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながるよう、地域・日本のレガシーとなる観光資源を形成することが重要である。

愛知県知多市岡田地区(以下「岡田地区」という。)は、江戸時代から昭和30年代まで知多木綿の生産地集積地として栄えた街であり、最盛期には木綿工場や商店、劇場などが軒を連ね、約3,000人ももの女工が働くほどの賑わいであった。現在も岡田地区には、江戸末期から昭和初期に建築された建物が多く残っており、国の登録有形文化財を中心とした街並みが形成されている。これらの街並みは地域住民の努力によって保存されてきたが、近年では少子高齢化などにより保存に携わる担い手が不足し、古民家の取り壊しが行われるなど、街並みの持続的な保全に対する課題も顕在化している。

岡田地区の古き良き日本の魅力を残すノスタルジックな街並みや知多木綿は、日本人にとっては郷愁を感じ、外国人にとっても日本の歴史文化に触れられる貴重な地域資源である。本調査では、地域住民との連携による街並みの保全・活用や観光交流促進、知多木綿を活かした賑わいの創出等を、新たなレガシー「共創で輝くノスタルジックなまち」と定義し、レガシー形成に向けた実現可能性調査(FS調査)や、レガシー形成のための基本戦略となる「知多木綿発祥の地・岡田 “つむぐ”、織姫のまちづくり構想」を作成することを目的とする。

(2)作業工程

下記の作業工程に沿って、調査を進めた。



(3)実施スケジュール

下記のスケジュールで実施した。

区分		実施スケジュール					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
岡田地区及び知多木綿発祥の地に関する調査	文献調査	調査実施・整理					
	聞き取り調査	調査実施・整理					
	ストーリー作成		ストーリー作成				
街並み・建物実態調査	現地調査	現地調査					
	空き家等リスト化		リスト化				
	アドバイザー招聘	現地調査・課題等検討					
	課題・可能性分析		課題・可能性分析				
ターゲット別ニーズ調査	来訪者調査	調査準備		調査実施	整理分析		
	将来来訪者調査			調査実施	整理分析		
	インバウンド調査			調査実施	整理分析		
	クリエイター・デザイナー調査				調査実施	整理分析	
	事業者調査				調査実施	整理分析	
「知多木綿発祥の地・岡田「つむぐ」織姫のまちづくり構想」の立案	まちづくり構想立案	構成・体系	素案作成		原案立案	とりまとめ	
	推進体制構築	体制素案	体制構築に向けた調整		体制構築		
検討会及びワークショップの開催	検討会		①		②	③	
	ワークショップ			①	②		

2. 岡田地区及び知多木綿発祥の地に関する調査

文献調査、地域住民や知多木綿関連事業者等への聞き取り調査などを行い、知多木綿や機織り文化の歴史や経緯、岡田地区の街並みの形成や保存の成り立ちなどを調査し、「知多木綿発祥の地・岡田 “つむぐ、織姫のまちづくり構想”を作成するための基礎資料を整理し、「知多木綿発祥の地・岡田ストーリー」にまとめた。

(1)元女工さん等へのヒアリング

1)調査概要

日時	令和4(2022)年11月9日(水)
場所	雅休邸
対象者	女性6名 うち女工経験者5名(1名は当時を知る岡田地区在住者) 男性2名 うち親族が紡績事業者勤務1名 (もう1名は当時を知る岡田地区在住者)

2)調査結果

①仕事

普通織機から自動織機に替わった時代であった。自動に替わると一人の女工さんが任される台数が増えた。

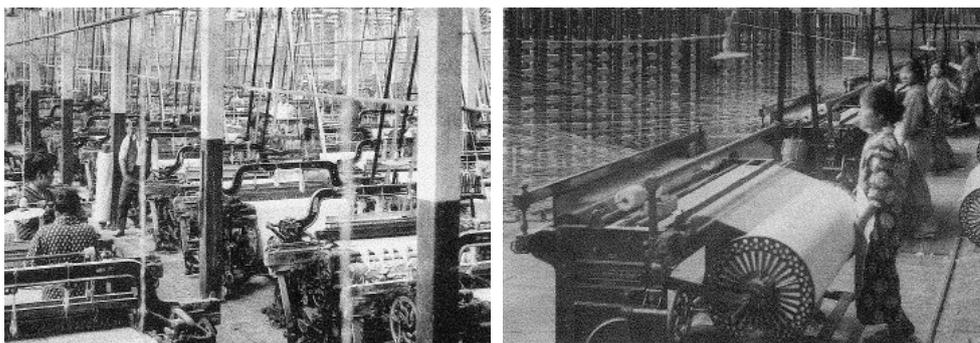
■織機と人員配置

普通織機	緯糸がなくなると止まる、糸が切れても止まる。1人で担当する台数は数台～10 数台。
自動織機	緯糸を変えることはしなくてよかった。効率は上がった。1人で担当する台数は20～40 台。

音が大きく、工場に入るとすごい音だった。工場から出ると耳が解放される。入社した時は一週間寝ていても耳に音がついていた。年を取ってみんな耳が悪くなった。

一等女工など、成績が毎月貼りだされた。

■工場の様子（大正時代）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

○厳しい先輩

あまり厳しい先輩などがいたとは聞いたことが無い。特に大きなトラブルを聞いたことはない。

○組合

常滑の大きい会社がストライキをしたという情報が入って、民主党または民社党員が組合を作って、多くの女工さんは組合員となった。組合は発言力などがあり御用組合といわれた。ゼンセン同盟（日本にかつてあった繊維産業が加盟していた労働組合）「あゝ野麦峠」（副題は「ある製糸工女哀史」）（1968 年）などが有名であり、労働環境改善の動きがあった。

○平均勤務年数

中学校を卒業して就職して成人式を迎えたころに地元に戻る方が多かった。7・8年間の勤務の方が多く、退職したら地元に戻る方が多かった。会社に入れば厚生年金の保障が入った。退職するときそれを一時金として受け取ることができて、多くの方が一時金を受け取っている。しかし、年金を受け取る時期になり厚生年金を受給したくても、一時金として既に支払い済みということで年金はもらえない。

一時金をもらっていない方は現在、年金として受け取っているようである。

②社会情勢

○戦争

横須賀などから日本軍の関係者が来て、軍事工場になった。横須賀から4,000人ほど通って来ていた。

○ガチャ万景気

紡績業は景気が良かった。終戦後は、節税対策としてたくさん給料を払う時代があった。

③方言

女工さんは九州出身の方が多かった。また、工場の寮は同郷で同部屋になる。また、行動は1人ではしない傾向にあった。(会社から一人の外出を避けるように言われていたのかもしれない。) 鹿児島の女工が複数人で出歩く場面に出くわしたことがある。鹿児島の方言は分からないと有名であった。女工さんは長野、秋田、宮崎、四国の方も多かった。

○鹿児島弁

女工さんが鹿児島弁を披露してくれた。

■鹿児島弁

鹿児島弁	意味
まこちげんねか。	まったく恥ずかしい。
ちよのげがおちた。	タオルが落ちた。

④生活

○衣類

呉服屋が3件あった。晴れ着は既製品もあったが、反物を買って仕立てることもあった。着付けも教えてもらえた。親に買ってもらうよりも自分で買った。

■岡田地区の床屋（昭和中期）（昭和20年代）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集
知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

○食事

寮に食事が出た。大きな釜があり、女工さんの3食を賄っていた。2交代制の食事を5名程度の職員で賄っていた。

○住宅

会社内の寮に住んでいた。通常は5人部屋程度。多いときは10人部屋になることもあった。

○お金

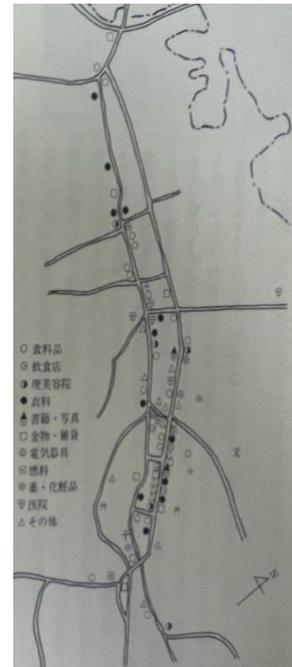
女工哀史のような感覚は無く、いろいろなものを楽しんでいた。好景気と重なり良い時代であった。

○収入

収入の一部を仕送り、一部を生活費、一部を貯金としている方が多い。

花嫁に行くときのために貯金をしろと会社から言われた。お嫁に行くときに親にはお金を出してもらわなかった。5年務めると、会社から箆笥を1棹もらえた。15年務めて箆笥を3棹もらって帰った人もいた。その中に、いろいろな着物などを詰めて帰った。

■岡田地区商店の分布（昭和20年代）



※出典：岡田町誌

■晴れ着姿（昭和初期）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集
知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

ボーナスは現金支給よりも現物支給というときもあった。年次によって浴衣、習いもの用の反物をもらったりした。その後、現金支給になった。現物支給のときは、ここから好きなものを選びなさいというよりもあてがわれたものだった。1社が現金支給になるとそのうち多くの会社が現金支給になった。

○仕送り（地元へ送る、地元から受け取る）

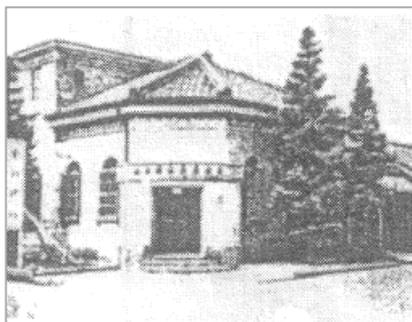
・地元へ送る

郵便局から仕送りをしていた。お金以外にも家族が盆正月に着るものを地元にした。会社が仕送りを天引きするようなことは聞いたことが無い。お金以外にも着物を着た写真を正月に地元の家族に送って近況報告をしていた。

・地元から受け取る

地元の家族から季節の懐かしい食べ物が届いた。地元からの仕送り品を会社で振舞ってくれた。鹿児島出身の女工さんの元には5月にちまき（あくまき）が来る。九州のあくまきはきな粉を付けて食べる。知多には無い食べ物で恐る恐る食べた記憶がある。

■東海銀行岡田支店（昭和16年）



■知多銀行岡田支店（昭和11年）



出典：岡田村誕生四百年記念写真集知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

⑤娯楽

○喜楽座

・喜楽座への着物

喜楽座には少し良い衣装に着替えていった。おしゃれをしていった。

工場の中にはいったら、制服があった。

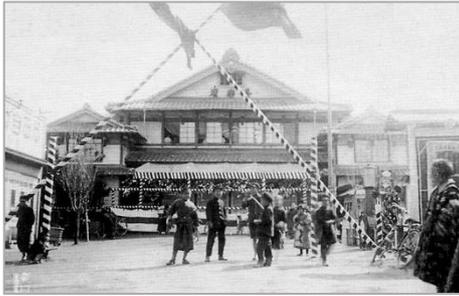
喜楽座には昼に演劇などを見に行った。

会社には門限があり、それぞれの会社で門限が違った。アサダは夜7時、オカトクはもっと遅かった。門限を超えると入口の門が閉められた。

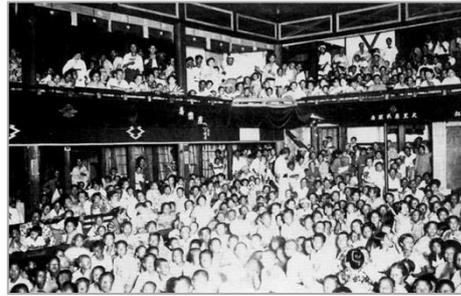
・俳優と女工

喜楽座に来る俳優は今のジャニーズである。お目当ての俳優さんが名古屋に来るとの情報を知りつけて、名古屋まで追っかけて行ったが会えなかった。当時の有名人だと、岡田に島倉千代子が来た。

■喜楽座外観（昭和初期）



■喜楽座内観（昭和時期不明）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

○球技大会

大きい会社はグラウンドを持っていた。

運動が好きな女工さんは、各種大会がありその練習に行く。

ソフトボールの上手な人はオカトクに集まっていた。

女性が大勢参加する大会を見に、近隣地域の男性が多く集まって活気があった。

○祭り

お祭りの日は全工場休みになった。4月中旬など。山車を女工さんが見に行く。山車を男性は張り切る。喧嘩も多かった。奥、中、里の山車がある。

○その他

日曜日に出荷のトラックに載せてもらってスケート場に行った。海に行くこともあった。

■西銀座発展会（昭和37年）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

⑥交通・移動

会社から寮までは同僚と歩いて通っていた。アサダから喜楽座は遠かった。

電車の駅まで歩くこともあった。本当の道を行かず、獣道を歩いて行った。海に行くこともあった。中学校の裏を歩いて行った。

⑦社外での交友関係

習い事で仲良くなることもあった。ソフトボール大会で目立つ活躍をしている社外の女工さんを見つけて、町のなかで声をかけることもあった。

⑧恋愛・結婚

女工として岡田に仕事に来て、ここで結婚した人を多く聞く。帰る方も多かったが残る方も多かった。知多だけじゃなく近隣市町村に嫁に行った。周辺市町村で女性が少ない状況もあった。3,000人程度の女工がいたので半島中から男性が集まった。

デートを見かけることが多かった。デートの日は休みの日が多かったと思う。早番で仕事が終わってからデートに出かけることも多かった。藁のつぼけでデートをしていた。その時期になるとつぼけでデートするという場面が多く見られた。みかんの木が多く、その陰に隠れてデートを楽しむというの聞いたことがある。

⑨苦勞

○さみしさ

寮の生活はさみしいというより楽しかった。15.6歳で鉛筆が転がっても箸が転がっても楽しかった。

○悲しいこと

九州の嫁を貰うと思わなかったと姑に言われた。それが悲しかった。姑はお嬢様だった。九州の工場の子をもらうというのは、学が無いようなニュアンスだった。

○断水

工場ではたくさんの水を必要としており、たびたび断水になった。工場には防災の観点に加えて断水対策で水を備えてあった。

寮には女工さんが多く生活するなかで、断水することが多々あった。池に行って洗濯をしていた。

■習い事（昭和初期）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集
知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

■結婚式（昭和15年）



■嫁入り道具（昭和38年）



※出典：岡田村誕生四百年記念写真集
知多木綿発祥の地・岡田「繁栄の歴史」

⑩岡田地区

○町の印象

住むのにいい街。交通の便が悪い。九州と変わらない田舎だなあと考えた。初めて来た日は、ノリ付けのにおいがすると思った。(岡田にずっといる人はのりの匂いが分からなくなる)

○岡田地区の特徴

・岡田民族

岡田は学校1つ、神社1つ、喜楽座1つで岡田の中で生活が完結していた。その様子を学者が見て岡田民族だと表現したことがある。岡田の中で買い物も済んでいた。八百屋市場がある。美容院がたくさんある。床屋もたくさんある。呉服屋は3件ある。大きなもめごともなく平和。引っ越していくことは仕事を求めてということが多く、家族で引っ越していくことは少なかった。

・地域の傾向

地域の出身者かどうかを気にする傾向があるように感じる。しかしそれを超えるとみんなよくしてくれる。地域に慣れると、住みやすい良い場所である。

・地域の子供と女工

子供のころに、女工さんに駄菓子屋でお菓子をおごってもらった。

⑪岡田の産業

○岡田の産業

みかん、木綿で潤った。会社が寄付を出してくれた。一般の人はお金を出さなくても祭りなどをやっていけた。今は会社がなくなり、まちのことをするとき一般の人はお金を出す習慣が無いので困っている。

○寄付

大きい事業者はあったが、お金持ちは多くはいなかった。大きい企業は岡田のことならと企業がお金を協賛してくれてお金を払ってくれることが多かった。

神社は浅田繊維(岡田工業)、お寺はオカトクのようなやんわりとした、線引きがあったように思う。

(2)リレーインタビュー

1)調査概要

所属	役職等	日時	ヒアリング場所
地域住民	元女工さん1～5	11月9日(水)	雅休邸
	住民(女性)		
	住民(男性)		
	親族が紡績工場勤務		
竹内合名会社	代表	11月9日(水)	竹内合名会社
岡田ゆめみたい	代表	12月3日(土)	SoN
岡田なごやか サロン	ボランティア女性	12月5日(月)	岡田なごやかサロン (旧知多貯蓄銀行岡田支店)
木綿蔵	地域団体長	12月3日(土)	SoN

2)調査結果

ヒアリング協力者_女工経験者 1	<ul style="list-style-type: none"> ・女工として働いたのは昭和40年くらいの話である。 ・女工時代は2交代制、土曜日は仕事をしていた。 ・お花、洋裁、和裁などを習っていた。会社によって福利厚生的に習いものをしていた。 ・それぞれの会社で習えるものは違った。 ・岡田の公民館でも和裁を教えるということもあった。半田の定時制の高校に行きたい希望があれば定時制の高校に通えた。
ヒアリング協力者_女工経験者 2	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和31年に来て中央綿布で女工として働いた。鹿児島出身。 ・お針を習いに行くと言って、喜楽座に通ったことが楽しい思い出。 ・帰りは甘味を食べて帰った。焼きそばなどもあった。岡田で働いていたのは高校生くらいの年の頃である。いつも悪さをしていた。 ・旦那さんとは恋愛で結婚し、岡田に嫁いだ。数年に1回程度鹿児島に里帰りをしている。
ヒアリング協力者_女工経験者 3	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和31年、オカトクに入社した。残っている1件のみの会社である。 ・鹿児島出身。 ・オカトクの寮に入っていた。5.6人部屋。多いときは10人の時もあった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・会社によって、寮の規模は違った。東工場などいくつも工場があった。岡田で一番の工場である。 ・小さい会社大きい会社合わせて 100 会社以上あった。(家庭内で 10 台程度の機織り機を稼働させて製造している小規模な会社も入れて。) ・伊勢湾台風は怖かった。こんなに怖い台風は始めてだった。
<p>ヒアリング協力者_女工経験者 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年間女工として働いた。昭和 25・26 年頃に就職している。 ・昭和 12 年生まれ。中学校を卒業してから 5 年働いた。 ・6 人兄弟 10 人家族で食べていくのが難しいため、住み込みで働いた。 ・朝起きるのがつらい。4:30 に起きる。朝が起きられなかった。 ・5 年働き、その後男性が戦争に行き、家庭の仕事をする必要があり、家の手伝いに入った。5 年間の間、いろいろな習いものをした。
<p>ヒアリング協力者_女工経験者 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数えて 90 歳になる。 ・中学校卒業後オカトクに就職した。兄がオカトクの事務をしていた。 ・兄弟が多かった。嫁に行く前に仕事にということで勉強より就職しなさいということだった。 ・オカトクは 3 棟寮があった。食堂に厳しいおばさんがいた。その方に礼儀作法を習った。 ・洋裁、あみもの、生け花の先生が来て習い事教室を開催していた。 ・ガチャマン景気とよばれた好景気の時代である。 ・女工さんは、地元にお金を送る方がいた。兄弟が入学する際はランドセルなども買っていた。お金のほかにお正月用の着物の反物などを送る方もいた。 ・年に一回慰安会あった。名鉄観光のバスで箱根に行ったことがある。 ・女工さんが会社の中で演劇をすることもあった。家族を呼んで上演した。メイクさんや衣装さんはプロの方に来てもらった。 ・夏は運動場に櫓を組んで盆踊りをした。西銀座を盆踊りで往復した。盆踊りは毎年実施した。女工として勤めた後、結婚をした。

	<p>※ガチャマン景気</p> <p>ガチャマン景気とは、1950年に勃発した朝鮮戦争を機に日本で発生した景気拡大現象である。「ガチャンと織れば万の金が儲かる」といった含意から、「ガチャ万」とも表記される。「繊維」、「紡績」といった糸偏の付く漢字の業種が儲かったことから「糸へん景気」とも言う。出典：ウィキペディア (Wikipedia)フリー百科事典_タイトル_ガチャマン景気</p>
地域住民(女性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女工の経験はない。地元の出身である。 ・ 喜楽座に行っていた。女工さんは集団で歩いていた。 ・ 岡田内に床屋が3・4件あった。 ・ 小学校3・4年の時に、女工さんが話している場面に遭遇したことがあるが、九州なまりで内容が分からなかった。 ・ 喜楽座でお芝居を見ていた。女優の大江美智子さんを喜楽座で見た。 ・ 寄宿舍が道沿いで、男性が来て合図をするとデートが始まると聞いた。喜楽座で芝居を見て演劇に憧れた。裏方で脚本を書いていた。横須賀高校（愛知県東海市）に在籍していた。女工さんの方言やデートの様子は聞いていてよく覚えている。 ・ 昭和の全盛期に町民運動会をしていた。当時は景気が良く、町民運動会は良い景品がもらえた。リレーの選手として参加した記憶がある。その他、ソフトボールやバレーボールの試合（大会）があった。工場対抗の試合だった。
地域住民(男性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育ちが岡田である。女工さんは若い女性が多く、地元の方とは違うコミュニティの方と感じた。女工さんが橋の欄干で夕涼みをしており、そこを学生の恰好で通るのは気恥ずかしくて嫌だった記憶がある。 ・ 女工を守る風潮があった。運動会など、女工さんが多く集まる機会に、他の地域からバスで、男性が女工さんを目的に岡田に来ることがあった。それを阻止しようとする動きがあり喧嘩に発展することがあった。 ・ お祭りにいくのも女工さんがいて自分が恰好悪くて行くのが億劫だった。思春期の頃の話だ。 ・ 女工さんが店に遊びに来ていた。3人も集まると女性は怖かった。何故か、「〇〇さんの次男だね」などと家族のことなどをよく知っていた。女工さんは一人で行動をすることはなく、集団行動だった。

	<p>た。岡田の男性は自分から女性を探さなくても周りに女性がたくさんいる環境であった。</p>
<p>ヒアリング協力者_男性2_親族が紡績事業者勤務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女工さんが歌謡曲をうたって、道を歩いていた風景が印象に残っている。 ・オカトクは楽団を持っていた。男性寮の2階は楽団練習場だった。今でも女工さんは歌える。演劇をする人、歌を歌う人もいた。 ・お父さんがオカトクに勤務していた。オカトクの慰安会を喜楽座でやった。女優の大江美智子さん呼んで慰安会をしたこともある。学校の行事で映画を見に行くこともあった。
<p>竹内合名会社代表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・喜楽座は地元の会社数社が立ち上げた芝居小屋である。 ・喜楽座は1925年に愛知県岡田に設立された劇場。 ・建物は1996年に取り壊された。保存したい気持ちもあったが老朽化が進みやむなく解体をした。 ・小さいころから喜楽座に通っていた。 ・喜楽座前の通りは住宅が立ち並ぶ地区であるが、昭和の繁栄した時代は織物工場が並んでいた。現在も創業しているオカトクの工場があり、飲食店も立ち並んでいた。 <div data-bbox="504 1171 991 1417" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="504 1429 890 1664" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="903 1429 1345 1664" data-label="Image"> </div> <p>■ヒアリングの様子</p>
<p>岡田ゆめみ代表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地元が高齢者のいこいの場所を作りたいという思いでサロンを立ち上げた。高齢者が愛着を持つ街並みを活用してサロンを実施したいと考えていた時に、旧知多貯蓄銀行が解体される話を聞き、この風景を残したい思いで仲間が建物を買取り活用することが出来ている。 ・利用者が当番制でスタッフとなり運営をしている。毎週月、火、

	<p>水、金の午前中にゲートボールをした帰りに高齢者が集う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡田なごやかサロンは地域遺産を活用したサロンとして国のイベントでの講演会などに呼ばれて講演をすることがある。 ・岡田は風情のある町で人力車が通る雰囲気などにあうと思い、星城大学の学生さんに協力してもらい人力車での散策と撮影会のイベントを実施したこともある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■ イベントの様子</p>
<p>岡田なごやかサロン ボランティア女性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なごやかサロンに地域から協力者が欲しいとのことでスタッフとして協力をしている。 ・地域で子育てをしている。 ・旧知多貯蓄銀行を買い取った方は、昔の雰囲気を伝えるものが大好きで、なごやかサロンの一角に懐かしいものを収集している。これをみんなに見てもらいたいと思っている。ここだけに置いておくのはもったいない。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■ 昔の雰囲気を伝えるもの</p>
<p>木綿蔵 代表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・木綿蔵で機織り体験をしている。 ・小学生に機織り体験授業を実施している。 ・木綿蔵の活動は古く、体験や木綿の商品販売を実施して収益がある。 ・岡田には「つものき」もある。木綿蔵は機織り体験が中心で、つものきは教室が中心になっている。 ・つものきの活動（雅休邸）にも参加している。こちらは昔の木綿のパターンをもう一度再現する活動などを行っている。 ・岡田ゆめみたいの活動にも参加している。 ・活動を引きついでいく若い方の参加が少なく気になっている。

(3)文献調査

1)調査概要

期間	令和4(2022)年11月～12月	
対象図書	1	知多市誌 (著者：知多市誌編さん委員会) (出版社：知多市) (出版：1984.3)
	2	写真集明治大正昭和知多 (著者：知多市古文化研究会) (出版社：国書刊行会) (出版：1985.10)
	3	岡田町誌 (著者：岡田町誌編さん委員会) (発行：知多市教育委員会) (出版：1990.3)

2)調査結果

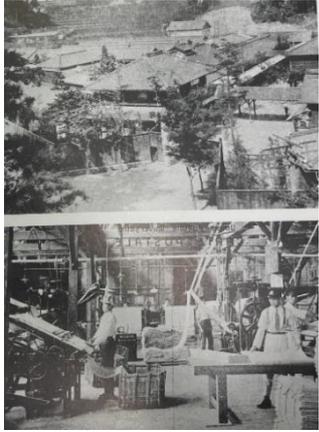
岡田の町についての記述	
文献2 p23	<p>昭和10年頃の岡田町中田交差点あたりの航空写真で道路を挟んで木綿工場の屋根が川の流れるように見える。当時、岡田町には25の工場と9の会社があり、岡徳織布・中七木綿など、知多郡上位10社のなかに3社も入り活況を呈していた。</p> <p style="text-align: right;">■航空写真</p>  <p style="text-align: right;">※出典：写真集明治大正昭和知多</p>
文献2 p24	<p>県道開通記念</p> <p>岡田知多木綿の産地として、機械化・合理化などの工場経営面では知多地方の中心として発展してきたが、最大の悩みは製品の輸送のための交通機関の不備であった。そこで県に働きかけて大正11年県道を開通させ、道路網を整備した。さらに大正14年岡田支線の引き込みも愛知電気鉄道と交渉したがそれは実らなかった。昭和初期岡田町の入口にあたる美城ヶ根より町を望んだもので、今の中田の交差点の付近である。</p> <p style="text-align: right;">■県道の様子</p>  <p style="text-align: right;">※出典：写真集明治大正昭和知多</p>

<p>文献 2 p30</p>	<p>岡田町役場</p> <p>知多木綿の生産地として発展してきた岡田町は明治 36 年には町政を施行した。写真は岡田字西島（現愛知経済連中部みかん共選所）にあったころの役場。大正年間。</p> <p>※大正年間（1912 年から 1926 年）</p>	<p>■岡田町役場</p>  <p>※出典：写真集明治大正昭和知多</p>
-----------------	---	---

知多木綿についての記述

<p>文献 1 p264</p>	<p>知多木綿買次問屋</p> <p>中世末期に、わが国に朝鮮から綿作や綿織物が伝来し、三買次問屋 河地方を発祥の地として一部地域で綿業が起こった。</p> <p>知多地方における木綿生産の起源は、慶長年間に江戸へ木綿を移出したと伝えられているが、確かな記録に欠け明らかでない。知多の木綿に関する比較的早い時期の記録からは、大野村の浜島伝右衛門が貞享 3 年（1686）に江戸で太物問屋を開業し、それ以前は繰り綿を取り扱う商人であったことが知られている。</p> <p>～中略～</p> <p>このように享保から宝暦期にかけて、相ついで木綿買次問屋が開業した背景には、この間に知多の木綿生産が農家の余業として広く普及し、江戸に移出するだけの生産力が備わってきたという背景があったとみてよいであろう。</p> <p>江戸両組木綿問屋仲間は、産地買次問屋を自己の集荷体制に組み込むにあたり、厳しい営業条件をつけている。</p> <p>～中略～</p> <p>このように江戸木綿問屋が、商品価格・輸送方法まで統制できたのは、産地問屋に対して多額の木綿買付資金としての前貸金を供与していたためである。前貸金の規模がいかに大きかったかは、文化 4 年（1807）に竹之内家が、横須賀村の村瀬彦助に「知多木綿買次問屋株」を四百両で譲り渡したとき、その代金を越える 420 両を江戸問屋仲間より前貸金として供与されていたことからわかる。この段階では産地買次問屋は、江戸木綿問屋の指示のままに営業する出先機関であり、木綿集荷量に応じて手数料（口銭）を得ている存在であった。</p> <p>はじめ知多木綿は生木綿を伊勢に送り、伊勢で晒して完成品となり、「伊勢晒」の名で江戸に販売されていた。天明年間になると岡田村の中島七右衛門が伊勢から伊勢晒の技法を会得して知多地方に伝え「知多晒」と</p>
------------------	---

	<p>して出荷する体制を整えた。そして、文化初年までには晒株が八軒設定されるなど、晒技法は知多木綿の生産に応じた晒加工ができるまでに発展した。</p> <p>こうして、知多の買次問屋は伊勢商人に頼っていた晒加工の依存から脱却するとともに、それまでの仕入集荷から、晒加工を加えた仕入加工集荷へと発展し、自己の利潤を増大させ、資本蓄積をはかり、ようやく江戸問屋仲間による絶対的な支配から離れる端緒をつかんでいったのである。</p>
<p>文献 2 p23</p>	<p>大正時代の岡田市街堂山より望んだ大正時代の岡田町の様子。織布工場の煙突が見られる。</p> <p>知多木綿の歴史は古く、慶長年間(1596～1615)には生白木綿の生産が始まったと伝えられ、無地の綿布を織っていた。享保年間(1716～1735)に中島七右衛門によって伊勢松阪から晒の技術が伝えられ、知多晒として江戸に売られるようになり知多木綿は急速な発展をとげた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div data-bbox="967 808 1134 842"> <p>■ 県道の様子</p> </div> <div data-bbox="967 848 1339 1084">  </div> </div> <p>※出典：写真集明治大正昭和知多</p>
<p>文献 2 p41</p>	<p>古見の竹内廻漕店</p> <p>木綿産業の盛んな岡田町を有力な背景地として、明治 37 年に創業した。八幡はもちろん阿久比の草木あたりまでを対象地域に貨物を取り扱っていた。</p> <p>出荷の多くは木綿が最も多く、移入した品は木炭や石炭・木材など時代で変わるが、主に工場用の原材料と燃料であった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div data-bbox="951 1234 1118 1267"> <p>■ 竹内廻漕店</p> </div> <div data-bbox="943 1272 1350 1480">  </div> </div> <p>※出典：写真集明治大正昭和知多</p>
<p>文献 2 p42</p>	<p>晒し</p> <p>木綿が織られたあと、晒しといってやや黄ばんだ生木綿を、真白に漂白する作業が行われた。木綿の晒し技術は、江戸時代、天明の頃に岡田中島七右衛門が伊勢から伝えたという。以後、岡田は知多木綿の生産地として名をあげていった。写真は昭和 12</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div data-bbox="986 1659 1153 1693"> <p>■ 晒しの干場</p> </div> <div data-bbox="1002 1697 1281 1895">  </div> </div> <p>※出典：写真集明治大正昭和知多</p> <p>年の頃の晒しの干場である。</p>

<p>文献 2 p42</p>	<p>岡田中七織布</p> <p>中七織布は岡徳織布につぐ織機を所有していた。もともと近代以来の間屋であったが、大正時代の後半の不況にあたって、じかに織布生産をはじめ、昭和2年に790台であった織機は、同14年には1,620台にまで伸びている。とりわけ第二工場は岡田の谷の入口にあり、織布の町のシンボルでもあった。昭和初期の写真。</p>	<p>■岡田中七織布</p> 
<p>文献 2 p43</p>	<p>木綿の出荷</p> <p>木綿の出荷は鉄道敷設以降、古見駅に集荷された。岡田から古見までの交通機関は、こうした荷馬車が多く利用された。写真は昭和10年頃。</p> <p>生産された木綿は、鉄道輸送のほかに岡田浜とか岡田折戸ともよぶ長浦をはじめ古見の海岸より、対岸の四日市や名古屋まで海上輸送され、さらにそこから各地に出荷された。</p> <p>※出典：写真集明治大正昭和知多</p>	<p>■荷馬車</p>  <p>■出荷風景</p> 
<p>文献 2 p44</p>	<p>昭和三五年頃の岡田</p> <p>大正・昭和初期における知多市域の工業は織布に代表される。綿工業の発展期における知多市の生産額は知多郡全体の3分の1を占めていた。さらに岡田町の綿織物生産額をいえば、市町村別単位でみた当時の愛知県下において、名古屋市・成岩町につぐ第3位でもあった。</p> <p>※出典：写真集明治大正昭和知多</p>	<p>■昭和三五年頃の岡田</p> 

岡田の文化	
文献 2 p65	<p data-bbox="416 322 909 593"> 岡田神明社の祭礼 奥組・中組・里組より、3 台の山車が 繰り出され、からくり人形が行われ た。当時、織布で栄えた岡田の祭り は、織布工場の女工さんたちで大変な 賑わいをみせた。 </p> <p data-bbox="699 607 1120 640">※出典：写真集明治大正昭和知多</p> <div data-bbox="1038 331 1310 360" style="text-align: right;"> <p>■昭和 35 年頃の岡田</p> </div> 

(4)知多木綿発祥の地・岡田ストーリー

調査結果を踏まえ、岡田の往時のにぎわいを、地区住民や来街者に分かりやすく伝えるとともに、今後の岡田のにぎわいづくりに向けた思いを伝えるものとして岡田ストーリーを以下のように作成した。



知多木綿は、
江戸時代の初期から知多半島で生産されて
岡田は知多木綿の 生産地・集積地で栄え
発祥の地と言われるまちであった



昭和初期の岡田町には
25 の工場と 9 の木綿を生産する会社があり
銀行、郵便局、劇場、映画館など
生活に必要なものが全て揃う
約 3,000 人も女工さんが働くまちであった

ガチャ万景気と呼ばれる好景気には
親元から離れ、青春を謳歌する若い女性たちが
自立するなかで、仕事に遊びに生き生きと暮らし
町は活気であふれた

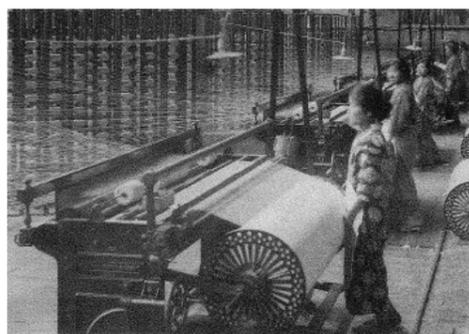


現在も知多木綿を生産する工場があり
真っ白な木綿は
日本の伝統美を支える反物として
出荷され続けている

かつての賑わいは
ノスタルジックな街並みとして受け継がれ
ゆったりとした時間が流れている
そんな雰囲気を味わえるお店が
女性に好評で
新たな人のながれを作りつつある



知多木綿発祥の地である岡田において
知多木綿、時の賑わいを偲ばせる
街並みや建物を活かした
女性を惹き付け、活動し、遊び、暮らす
“つむぐ”織姫のまちづくりをつづけていく



知多木綿

知多木綿は、江戸時代に知多半島の家々で織られるようになりました。その後、家庭内での機織りから工業化が進み、明治時代にはシャトル織機が連なる工場が軒を連ねました。現在は、1件の工場が反物を生産しています。生産される知多木綿は真っ白であり、表面に光沢があるのが特徴です。また岡田では手織りを伝える方々の温かみのある手織りの商品を買求めることもできます。



小粋な街

昭和20年代には呉服屋が3件もありました。お正月には晴れ着を新調した女工さんが写真館で写真を撮り、それを郵便局から実家に送り、頻繁には帰れないなか、日々の生活を家族に伝えていたと言います。晴れ着は反物から仕立てることも、既製品を購入することもできたそうで、流行のものをまちのあちこちで見かけたようです。今では、晴れ着の着物は見かけないものの、黒板塀や蔵が残る街並みはその頃の粋な雰囲気を伝えています。



女性の集まる地

最盛期には、3,000人を超える女工さんが岡田地区に住みつつ、木綿生産に携わった賑やかな時代があります。中学校を卒業した若い女性が結婚するまでの間に木綿工場に勤めることが多く、近隣県のみならず九州などから勤めに来る方が多かったようです。仕事の合間に洋裁やお花の習い事やスポーツを楽しんでいました。今は、この時代の面影を残すノスタルジックな街並みにカフェやショップが出来ており、ゆったりと流れる時間を楽しむ女性の人気を集めています。



物流や情報

知多木綿の流通のために、明治時代には流通網が整備され、道路や出荷体制が整備されました。また、産業や人の流れとともに娯楽としての演劇や映画が喜楽座に入って来ました。作品を見に来るお客さんで喜楽座は朝から晩まで賑わったそうです。このようなまちの記憶をアーカイブ化して残し伝えていく取組をまちづくりに取り組む方々が行っています。



衣・食・住

岡田には、飲食店や甘味処、美容室、呉服屋、日用品店、映画館、銀行、郵便局など生活に必要な店がたくさんありました。岡田のなかで生活が完結できていたそうです。また、チリンチリンと鈴の音を響かせ、遍路姿で知多の各寺院を巡る「弘法めぐり」が盛んであった明治時代までは弘法宿も数件あり宿泊することも出来ました。今でも現役の宿があり、予約制で宿泊ができ岡田に滞在することも可能です。



地域への愛着

地域には神明社と慈雲寺があり、法要などの際には木綿工場が寄付をすることが良くあったと聞きます。また、会社対抗の球技大会やお祭りで活気を見せました。地域を盛り上げる気持ちは今でも変わらず、まちのことを考えるさまざまな方と出会えます。街並み保存の取組や、知多木綿の体験の取組、地域の事業者、住民。ここに住む人や新しく訪れる人のそれぞれに地域への愛着が育っています。